

政治活動の理論と実践

■ 2ちゃんまとめブログ

2ちゃんまとめブログで、捏造情報を掴んでしまって、「山尾志桜里は、こんな違反をしている！」みたいになっちゃうと、信用を失うことになります。2ちゃんまとめブログは、世間では「おもしろいけど信用できない」という程度の認識であり、政治を発信する立場の人が、本気になってその情報を人に教えたり議論するなど漫画です。リンクをクリックするだけでなく、クリックそれ自体が取材なんだという能動性が必要になります。

■ 組織の形成

『コミュニティは濃くなりすぎると窮屈になり、そこにいる人達は別のコミュニティに移る。それを何度も繰り返してるのがネットの歴史だと思ってるんだけど、コミュニティ運営者は濃くする「改善」をいつもやる。』

出典 <https://twitter.com/takanori1976/status/719322754986545152>

これは、政治活動にも言えることで、濃い集団を作ってさらにさらに過激に先鋭化していくと、一般人が参加しづらくなります。政治は数です。

先鋭化した原理主義者によって間口が狭まれ、新規が入ってこない。中堅がついていけず見限る。どのジャンルでもよくあることです。

たとえばあえて極端に言えば、「チャンネル桜」は運動としての色が濃すぎであるし、保守ビジネスと化しているともいえます。対照的に「DHC シアター」はうまくイデオロギー色を消して一般人を呼び込む姿勢を見せているため評価できるでしょう。

保守を結集することに労するより、広く国民の支持を得ることを第一に考えるべきです。

■ 実際の体験

街宣を聞かせる。ネットで拡散する。それだけでは足りません。

『ネットメディアだと読者との関係性をどう作るのかが大事、とはよく言われることだと思うんですが、読者とのコミュニケーションの媒体は、何かしらの物質が必要だと思っているこの頃です。デジタルデータだけじゃない、物質を通じてこそコミュニケーションが深くなるというか。』

出典 <https://twitter.com/kensuu/status/687661789492871168>

これは政治活動にも応用できます。ネットの時代と言っても、まだまだ現実が強いですし、なんらかの実際の体験をさせることで記憶に定着させるということ。

『今の世代は SNS のバカなやりとりとかに風情を感じるようになるのではと思ったけど、当時パソ通してた身としてはそういう物は何も残ってないので五感に影響がない記憶って案外浅いかもしれない』

出典 <https://twitter.com/Tatopon5/status/716801220724203520>

これも前記の論理と同じことを言っています。握手の数だけ票が増えるとはよく言ったものです。講演会に来てもらうのも体験ですが、選挙の証紙貼りなどしてもらったり、選挙の立

会人になってもらったり、考えればいくらでもでてくるでしょう。また、「NHK 撃退シール」や「歴史戦ポストカード」は実際に触って参加できる好例だといえます。

■ 文字を書いた帯の価値

『全く売れないCDがあった。それに、文字を書いた帯を付けてみた。これはこういう音楽です、というただの説明書きた。ところがそれだけなのに売り上げが35%も上昇した。これは実経験。帯を付けろ。必ずつけろ。買う人ってのはそれをちゃんとチェックしてるんだ。聞いてくれればわかる、は逃げだ。』

出典 https://twitter.com/carrotwine_/status/722040414924984320

何をするにも、イメージできるように、説明文を書いて示すこと。そのひと手間をはぶくようではうまくはいかないでしょう。Twitterも理解を得られるための努力は必要です。

■ 真の支持母体

国際政治学者で慶應義塾大学法学部教授の細谷雄一さんは自身のブログで、「これからは、低学歴、低所得、そして失業中の不幸と不満に直面する多くの人々が」高学歴、高所得のエリートがある意味で占有してきた既得権益を「破壊して、感情を発露するようになるでしょう」と述べています。（出典 <http://blog.livedoor.jp/hosoyayuichi/>）ヨーロッパでシリアからの難民に反対するデモや政党などは、その実例でしょう。

そういった低学歴、低所得、失業中で不満を持っている日本国民を主な支持母体とするべきでしょう。ですが日本では、海外のそういった不安定さも経済状況の悪化も感染することなく比較的安定した社会を保っている可能性も高いのですが、日本社会に格差拡大が進むなか、時代の最先端を行くという意味では間違っていないと思います。労働環境の改善は、まさに野党がとるべき態度でしょう。

■ 第 3 極

第 3 極というものは、落選しても構わないと思ってなきゃ、やってられないものです。なぜか、選挙には風が吹きます。

第 3 極というのはどうしても風に乗るからなびいてきます。民主が強かったと思ったら自民が強くなったり、そうなると、自民寄りにどちらかという、振っておいたほうが選挙全体有利みたいな立ち位置になってしまうので、政局の状況がどうであれ、第 3 極がしっかりするには、どんな選挙になったとしても自分たちは、落選してもやむなし！というくらい腹をくくらないと、揺れておかしくなるのです。

著者：齊藤みちる

みんなの社会科

<http://www.minsya.jp/>